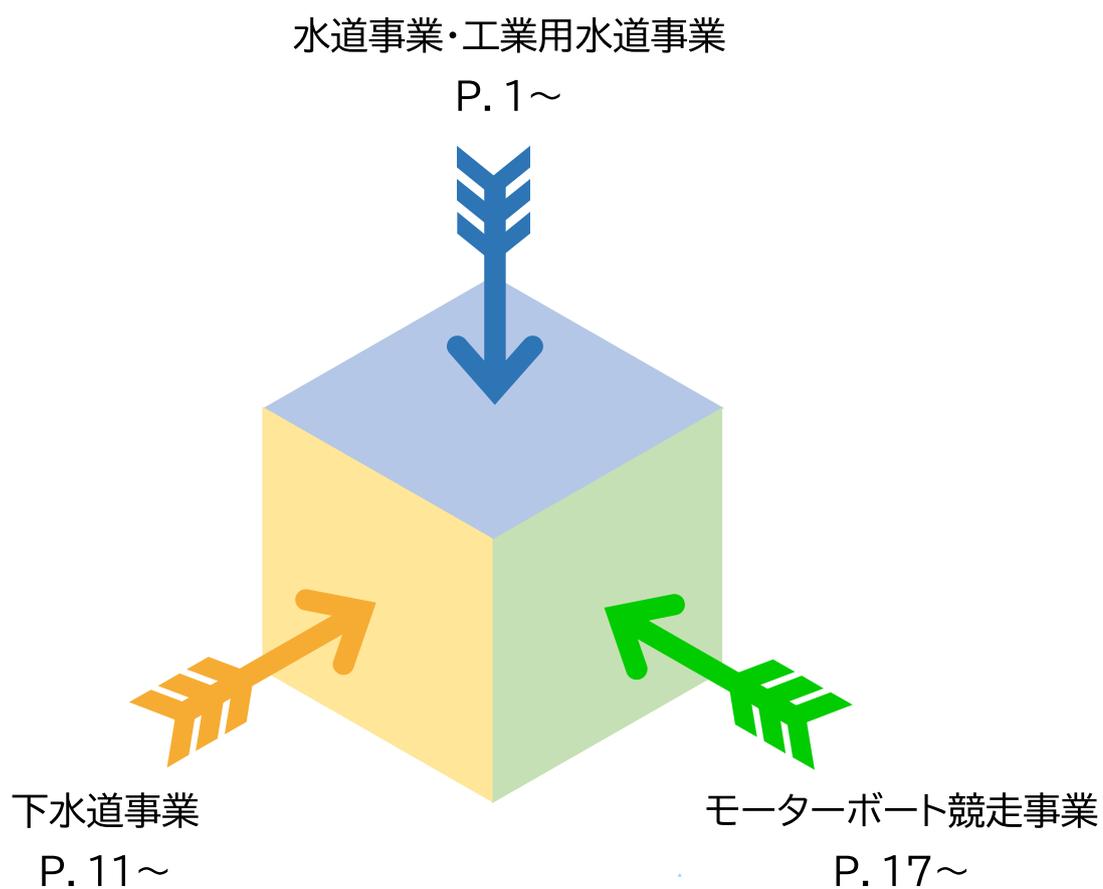


令和7年度 公営企業局 主要事業



令和7年2月
尼崎市 公営企業局

水道事業会計 ・ 工業用水道事業会計

令和5年度決算評価

事業進捗の課題等

- 令和5年度は、適切な施設整備や応急給水拠点の整備等を着実に進めるなど、概ね計画に沿った事業進捗となりましたが、管路の更新事業は、進捗に遅れが生じました。
- 令和7年度予算では、こうした進捗上の課題等を踏まえる中で、目標の達成に向けた取組を着実に進めます。

■未達成項目

管路更新・配水ブロック化等

計画達成率
82%
(14/17項目)

主な経営指標の課題等

経常収支比率（経営の健全性）

- 人口減少等による収益の減少が見込まれる中、健全な経営の維持に取り組めます。

- ▶ 収益で費用をどの程度賄えているかを表す指標
- ▶ 経常収益/経常費用
- ▶ 100%以上が良好



有形固定資産減価償却率（老朽化の状況）

- アセットマネジメントの観点から、社会課題であるインフラの老朽化対策に取り組めます。

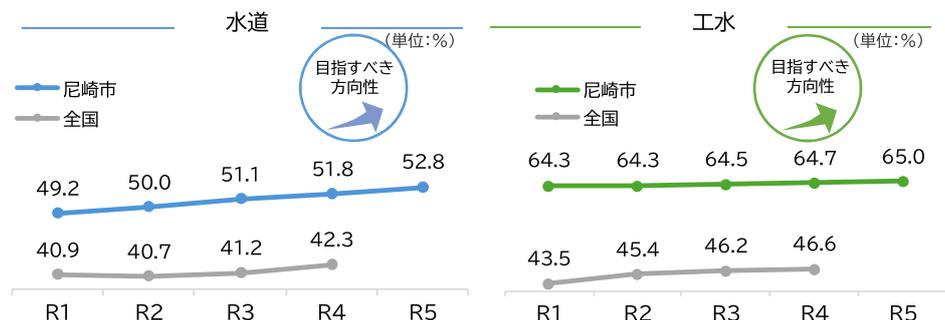
- ▶ 有形固定資産の老朽化割合を表す指標
- ▶ 有形減価償却累計額/償却対象資産の帳簿原価
- ▶ 計画的かつ効率的な「アセットマネジメント」の取組が重要



基幹管路の耐震化率（耐震化の状況）

- 自然災害が激甚化・頻発化する中、より一層重要となる防災・減災対策の強化に取り組めます。

- ▶ 基幹管路のうち耐震性のある管路の割合
- ▶ 基幹管路のうち耐震管延長/基幹管路延長



ビジョン取組項目

目的	 安全な水を安定して届ける	 災害から守り備える	 将来へ事業をつなげる
方針	適正な施設への再構築 安全な水の供給	防災対策 減災対策	経営基盤の強化
主な取組	① <u>水道事業の施設のあり方</u> ② <u>工業用水道事業の施設のあり方</u> ③ <u>管路の計画的更新と維持管理</u> ④ <u>配水ブロック化</u> ⑤ 配水バランスの変更 ⑥ <u>水源水質の保全</u> ⑦ <u>水質管理の徹底</u> ⑧ 直結給水の推奨と貯水槽水道の適正管理 ⑨ 鉛製給水管の解消	⑩ 施設や管路の防災対策 ⑪ <u>応急給水拠点の充実</u> ⑫ 業務継続計画の運用 ⑬ 市民や地域との連携の充実	⑭ <u>経営の効率化</u> ⑮ 広域連携・官民連携 ⑯ 広報・広聴 ⑰ 人材育成

主要事業

安全な水を安定して届ける

1 <u>施設のあり方</u>	>> 将来にわたって安定供給できる施設整備を実施	水 173百万円 工 656百万円
2 <u>管路の計画的更新と維持管理</u>	>> 配水管の更新工事等の実施	水 1,319百万円 工 314百万円
3 <u>配水ブロック化</u>	>> ブロック化により、災害時の断水範囲の局所化や迅速な対応等を図る取組	水 2百万円
4 <u>水源水質の保全・水質管理の徹底</u>	>> 早期に水源の異常を発見し、適切な水質管理を実施	水 103百万円

災害から守り備える

5 <u>応急給水拠点の充実</u>	>> 災害時に給水を行うための応急給水拠点を整備	水 31百万円
--------------------	--------------------------	---------

将来へ事業をつなげる

6 <u>経営の効率化</u>	>> ICT等を活用したお客さまサービス向上や業務効率化の向上	水 3百万円 工 4百万円
-----------------	---------------------------------	------------------

安全な水を
安定して届ける



1-1

水道事業の施設のあり方

水 173百万円

目的

節水機器の普及や人口減少に伴う水需要の減少により、施設能力と水需要との乖離が広がることが見込まれる中、将来の投資や維持管理費用の縮減を図りつつ、水道水の安定した供給を継続する。

主な事業

施設更新等 133百万円

● 神崎浄水場 89百万円

- ・活性炭吸着池弁類更新設計業務委託
- ・残留オゾン濃度測定装置更新工事
- ・中央管理棟次亜室空調機更新工事
- ・水質計器更新 他



活性炭吸着池弁類



残留オゾン濃度測定装置



次亜室空調機



水質計器

● 柴島取水場 44百万円

取水塔連絡橋耐震工事

神崎浄水場の再整備事業 40百万円

● アドバイザリー業務委託 29百万円

再整備事業の実施に向けて公募書類等の作成及び事業者選定支援を専門の業者に委託する。

■業務内容(R7~R9)

- ・基本条件の整理及び基本設計
- ・実施方針及び要求水準書作成
- ・事業者選定支援等

● 施設老朽度調査 11百万円

神崎浄水場再整備事業に向けた施設老朽度の調査を実施する。



今後の取組

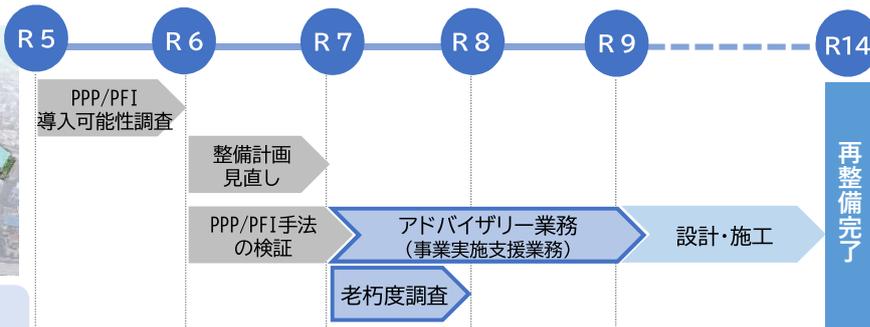
新管理棟・配水ポンプ棟等
(将来の配水場化後も供用)

案



浄水施設
(配水場化までの約20年間維持)

神崎浄水場 再整備事業スケジュール



安全な水を安定して届ける



1-2

工業用水道事業の施設のあり方

工 656百万円

目的

ユーザー企業が減少する中、他の事業者との連携による施設のあり方の検討や老朽化対策を講じるなど、工業用水の安定した供給を継続する。

主な事業

施設更新等 645百万円

● 園田配水場 79百万円

- ・ソーダ灰注入設備更新工事
- ・ポンプ棟屋上防水工事 他



● 一津屋取水場 26百万円

導水ポンプ用吐出弁及び逆止弁更新工事

● 江口取水場 540百万円

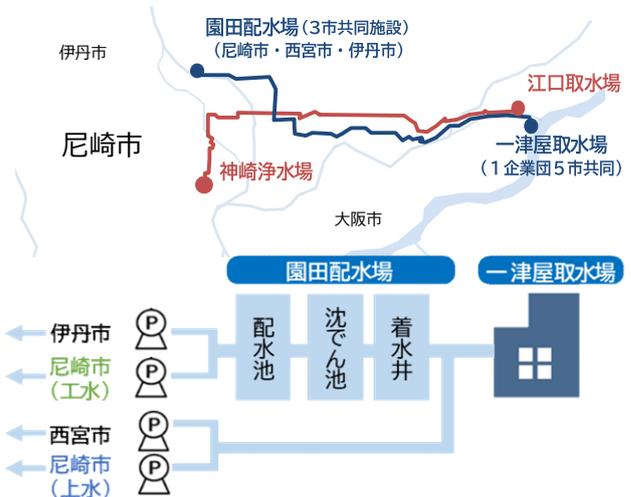
- ・受変電設備等更新工事
- ・ポンプ設備等更新工事 他



園田配水場の改修事業 11百万円

● 施設老朽度調査 11百万円

園田配水場(3市共同施設)改修事業に向けた施設老朽度の調査を実施する。



今後の取組

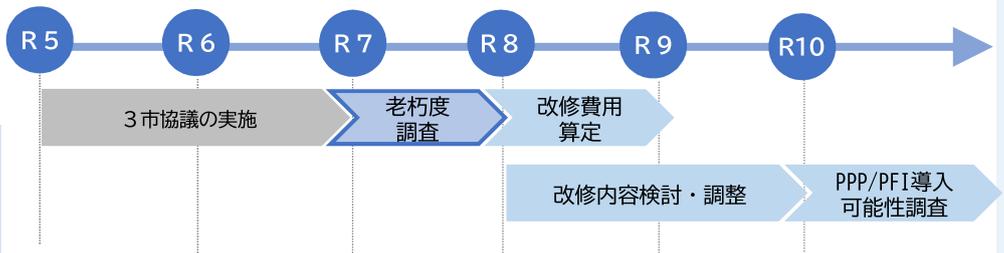


3市協議の内容

- 改修事業の内容や費用
- 改修事業の実施手法等

※ 3市・・・尼崎市、伊丹市、西宮市

園田配水場 改修事業検討スケジュール



安全な水を安定して届ける



2 管路の計画的更新と維持管理 水 1,319百万円 工 314百万円

目的

「重要度・老朽度・耐震性」の3つの観点から配水管の更新優先度を設定し、投資規模の平準化を図りつつ、計画的に管路を更新する。また、管路の維持管理においては、従来の対処的な修繕等を実施するのではなく、より効率的かつ計画的な予防保全の取り組みを推進する。

主な事業

配水管の更新工事

水 1,274百万円 工 288百万円

老朽化した配水管の更新に合わせて耐震化を実施する。



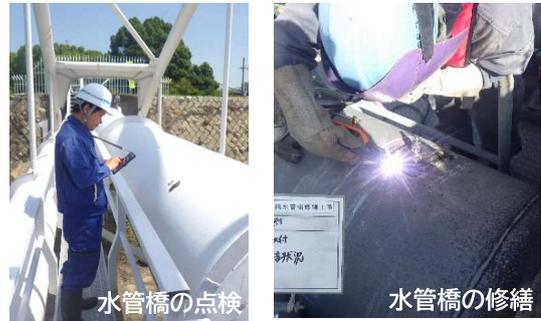
10号配水本管

10号配水本管

維持管理点検・維持管理工事

水 45百万円 工 26百万円

管路施設の点検と修繕工事により、適切に維持管理を行う。



水管橋の点検

水管橋の修繕

ビジョン進捗・目標

配水管の更新 延長累計(km)

水

令和2～7年度(予定)

62.2km

(R7予定:7.7km)

令和11年度末目標

100km

進捗率
(R7未見込)

62%

工

令和2～7年度(予定)

2.9km

(R7予定:0.2km)

令和11年度末目標

6km

進捗率
(R7未見込)

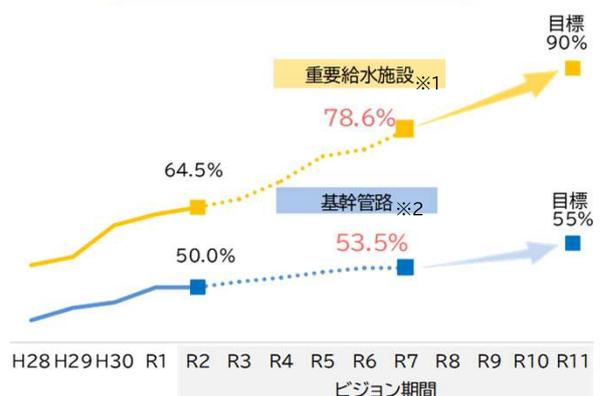
49%

今後の取組

10号配水本管更新工事



管路の耐震化率



※1 災害時に重要な拠点となる病院や指定避難所など、給水優先度が特に高い施設
※2 水を供給するうえで基幹的な役割をする管路(導水管と配水本管)

安全な水を安定して届ける



3

配水ブロック化

(市内配水エリアの整理)

水 2百万円

目的

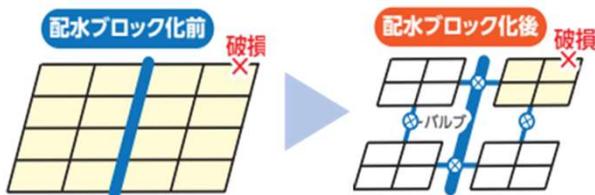
配水ブロック化(市内20ブロック)に取り組み、水の流れを単純化し、平時の漏水の把握や大規模災害時の断水解消への対応の迅速化を図るとともに、課題となる猪名川浄水場の機能集中の改善を目指す。

主な事業

ブロック化の取組 一円

大規模災害時の断水範囲を局所化し、迅速に復旧するためにブロック化を実施する。

■R7予定:4か所(16か所→20か所)



破損個所が分かりにくく断水が長期化し、断水範囲が広い

ブロック化により、早期発見・対応ができ、断水範囲が小さくなる

水道管路施設管理システムの改修 2百万円

新たに設置する水圧監視装置からのデータを表示できるように、水道管路施設管理システムの改修を行う。



ビジョン進捗・目標

ブロック化実施箇所数(累計)

令和2~7年度(予定)

20ブロック

(R7予定:4ブロック)

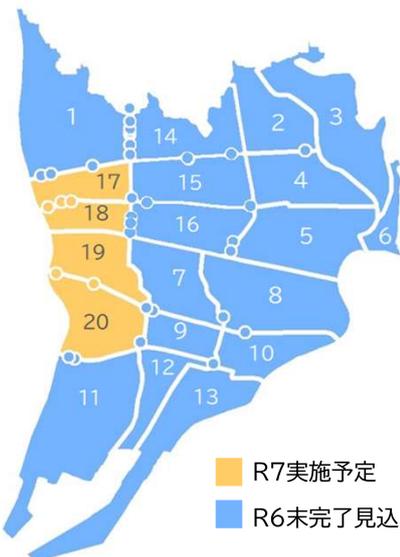
令和7年度末目標

20ブロック

進捗率
(R7未見込)

100%

今後の取組



■ R7実施予定
■ R6未完了見込

ブロックごとの災害対策

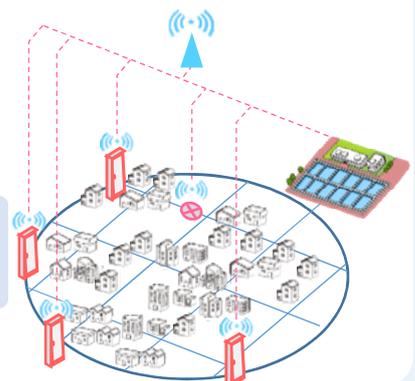
ブロックごとの特性を把握(給水人口、耐震化延長、標高、重要給水施設など)

ブロックごとの特性にあわせた災害対策を検討、実施

水圧監視装置の設置

平常時の安定給水の確保及び事故・災害発生時における市内配水圧を速やかに把握する。

- 平常時:ブロック内の水圧管理
- 災害時:水圧状況の早期把握





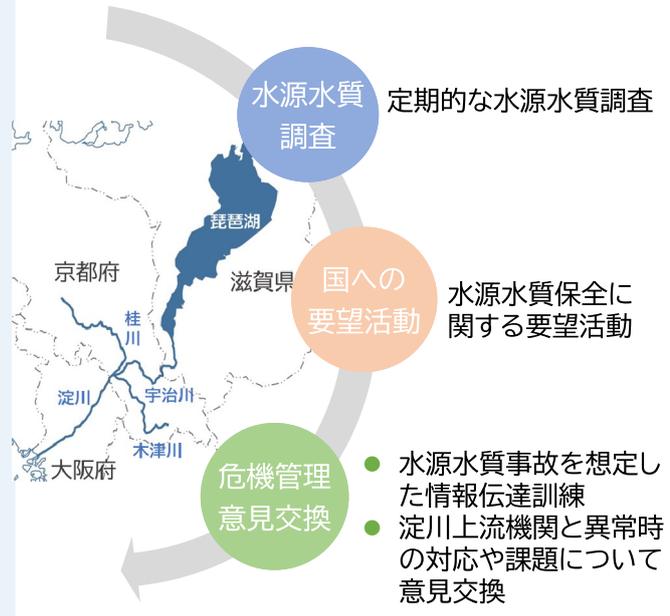
目的

琵琶湖・淀川水系の水源水質の保全に取り組むため、淀川から取水する水道事業者と連携して、早期の水源の異常を発見し、迅速に対応する。
水道水の安全・安心を確保するため、水安全計画及び水質検査計画の運用を通じて、水源からじゃ口に至るリスクの未然防止や適切な対応等を講じ、水質管理の徹底を図る。

主な事業

琵琶湖・淀川水系の水質保全・監視 一円

水源を守るため、淀川水質協議会※を通じて水質保全や監視を継続する。

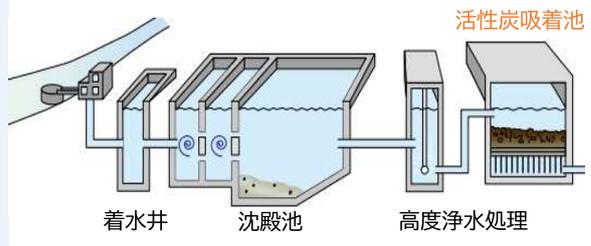


※大阪広域水道企業団、大阪市、守口市、枚方市、吹田市、阪神水道企業団、西宮市、伊丹市、尼崎市の9団体で構成

活性炭入替・水質分析機器更新 103百万円

● 活性炭入替

神崎浄水場高度浄水施設の活性炭吸着池で使用している粒状活性炭の入替を実施する。



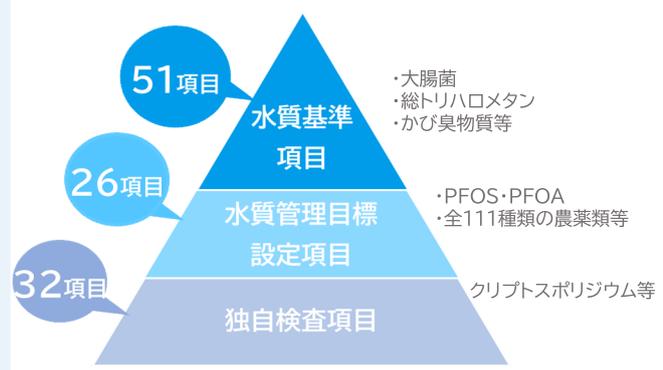
● 水質分析機器更新

ガスクロマトグラフ質量分析計など



今後の取組

水質検査計画に基づく水質検査



合計109項目について自己検査により、水質事故等異常発生時には迅速に対応が可能

有機フッ素化合物(PFOS・PFOA)への対応



- 国の動向の把握、原水の継続監視
- 粒状活性炭の更新時期を変更

※1 ナノグラム(ng)は10億分の1グラムを示す単位
※2 目標値は、人が生涯にわたり毎日2ℓ飲用しても問題ないとされる値

5

応急給水拠点の充実

水 31百万円



目的

災害などによる断水時にも水道水を供給するために、避難所となる市内の小中学校等に「応急給水栓」を整備する。

また、市民の皆様が自身で応急給水拠点の開設を行えるよう、整備済みの拠点において定期的な訓練を実施する。

主な事業

応急給水拠点の整備 31百万円

- 設置予定校(6か所)
 - ・大庄小学校
 - ・立花北小学校
 - ・塚口小学校
 - ・園田中学校
 - ・長洲小学校
 - ・武庫北小学校



ビジョン進捗・目標

応急給水拠点数(累計)

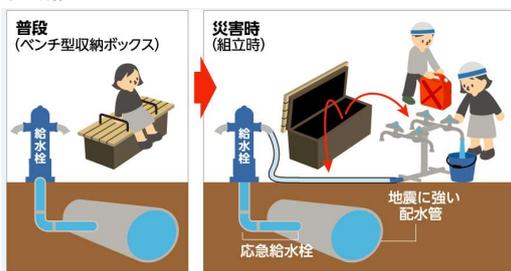
令和2～7年度(予定)
78か所
(R7予定:6か所)



令和8年度末目標
80か所



今後の取組

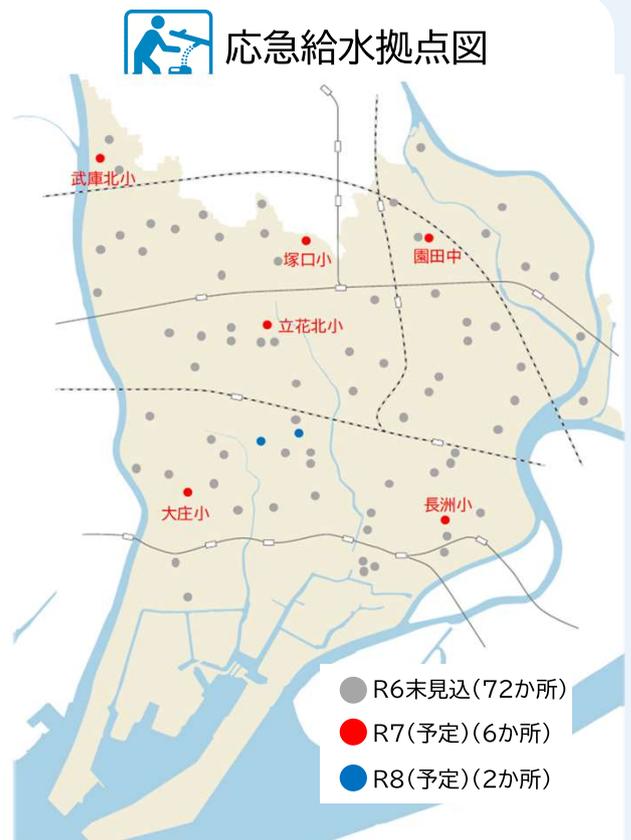


応急給水訓練の実施

整備が完了した避難所となる小中学校等において、地域の方々と設営訓練を年15回程度実施する。

あま咲きコインを活用し訓練参加を促進

- あま咲きコインアプリユーザーに訓練開催を通知
- 設営体験に参加した方にあま咲きコイン50ポイント付与



将来へ
事業をつなげる



6 経営の効率化

水 3百万円

工 4百万円

目的

お客さまサービスや業務効率の向上を図るためICTの利活用を推進するなど、更なる経営の効率化に取り組む。

主な事業

チャットボットの改善 水 2百万円

お客さまからの電話による問合せ内容をAI分析により、課題を可視化することで、問合せ対応の改善につなげる。

課題



対応策



問合せ内容をAI分析により、課題を可視化



課題を分析し、チャットボットやホームページに反映・改善



お客さまからの問合せ対応を改善

水道施設情報管理システムの更新 水 1百万円

水道施設情報管理システム※をパッケージ型システムに更新し、機能面の充実とともに経費の削減を図る。(R9稼働予定)

※GIS(地理情報システム)を使って管路情報や図面を包括的に管理・閲覧・分析するシステム



- ・管路属性 (管種、口径、布設年度など)
- ・工事竣工図面
- ・給水装置図面
- ・更新計画 など

3.0億円

1.9億円 (▲1.1億円)

管理水準を下げずに…

経費 40% 削減!!

現行システム(オンプレミス型)

新システム(パッケージ型)

完成図書の電子化

水 1百万円

工 4百万円

神崎浄水場及び園田配水場に紙の媒体で保管している完成図書を電子化し、図面の確認業務等の効率化を図る。

今後の取組

スマートメーター導入実証実験

検針が難しい場所などを中心とした市内約50か所にスマートメーターを設置し、令和7年度中を目途に実証実験を開始。効果検証や課題整理を行う。



実証実験イメージ



(このページは白紙です。)

下水道事業会計

令和5年度決算評価

事業進捗の課題等

- 令和5年度は、マンホールトイレの設置による地震対策や、ポンプ能力の増強による浸水対策を着実に進めるなど、概ね計画に沿った事業進捗となりましたが、管路の更新や雨水貯留管の整備などでは、進捗に遅れが生じました。
- 令和7年度予算では、こうした進捗上の課題等を踏まえる中で、目標の達成に向けた取組を着実に進めるとともに、引き続きウォーターPPPなどの新たな課題にも取り組みます。

未達成項目

管路更新・雨水貯留管等

計画達成率
76%
(13/17項目)

主な経営指標の課題等

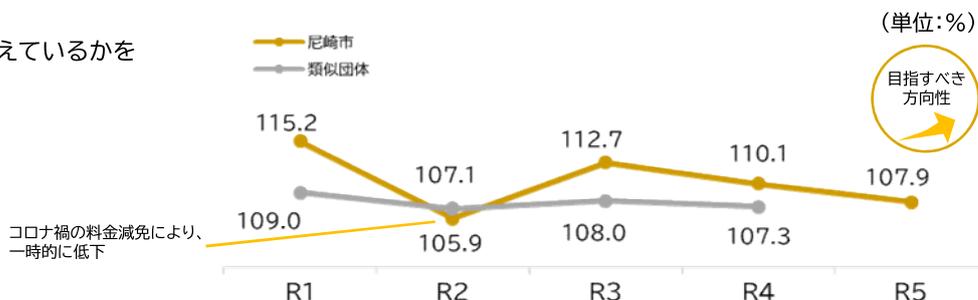
経常収支比率（経営の健全性）

- 人口減少等による収益の減少が見込まれる中、健全な経営の維持に取り組みます。

▶ 収益で費用をどの程度賄えているかを表す指標

▶ 経常収益/経常費用

▶ 100%以上が良好



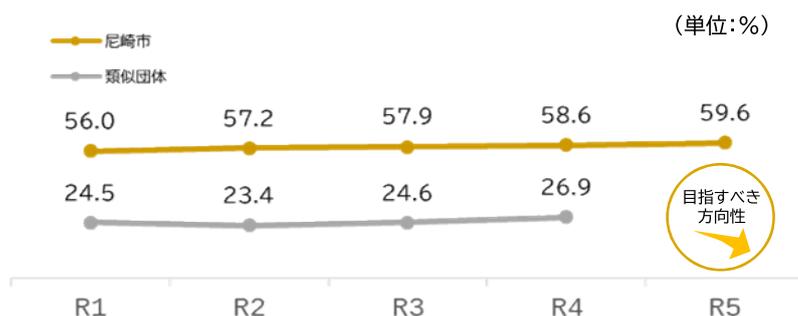
有形固定資産減価償却率（老朽化の状況）

- スtockマネジメントの観点から、社会課題であるインフラの老朽化対策に取り組みます。

▶ 有形固定資産の老朽化割合を表す指標

▶ 有形減価償却累計額/償却対象資産の帳簿原価

▶ 計画的かつ効率的な「ストックマネジメント」の取組が重要



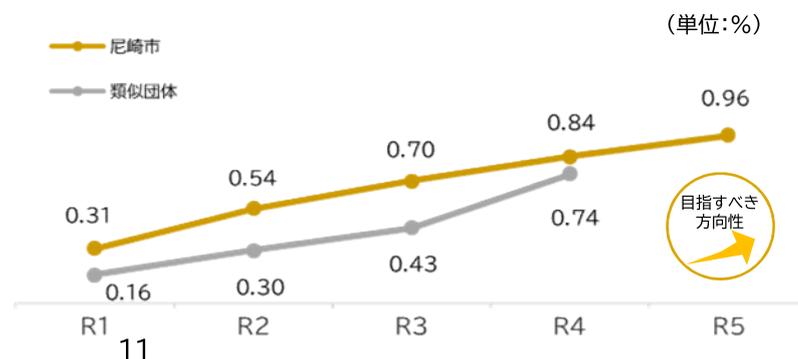
管路改善率(累計)（管路の更新状況）

- 自然災害が激甚化・頻発化する中、老朽化が進む管路の計画的な更新に取り組みます。

▶ 管路の更新ペースを表す指標

▶ 令和元年度から当年度までに更新した管路延長の累計/管路延長

▶ 重要な幹線など、比較的口径の大きい管路から順に取り組んでいます



ビジョン取組項目

目的

まちの
くらしを支える

効率的かつ持続可能な
下水道



施策

- I 施設の高度な維持管理
- II 良好な水環境の形成
- III 環境負荷の低減

取組

- ① ストックマネジメント手法を取り入れた施設の維持管理
- ② 施設の劣化予測精度の向上や故障の予兆検知による耐用年数の見直し
- ③ コンパクト化と統廃合検討を踏まえた施設の建替え
- ④ 下水の高度処理や水質監視計器設置等による川や海への放流水質の向上
- ⑤ 高効率機器の導入による省エネルギー化と下水道資源の有効利用による創エネルギー化

災害から
守り備える

復元力の高い
下水道



- IV 災害対応力の強化
 - 1(浸水から守る)
 - 2(地震から守る)
 - 3(災害に備える)

- ⑥ 雨水ポンプの能力増強や雨水貯留管の整備による施設能力の強化
- ⑦ 河川氾濫など浸水時のポンプ場・浄化センターの機能確保に向けた耐水化
- ⑧ ポンプ運転の効率化や浸水被害軽減につなげる下水の流入予測技術の確立
- ⑨ 民間事業者等による雨水貯留浸透施設の設置
- ⑩ 地震の影響を最小化する建築構造物や土木構造物の機能確保
- ⑪ 防災拠点、災害対応病院、避難所など重要施設からの排水ルートの確保
- ⑫ マンホールトイレの設置、設営の推進など避難所等でのトイレ機能の確保
- ⑬ 業務継続計画(BCP)の充実

将来へ
事業をつなげる

経済的で安定的な
下水道



- V 安定経営の継続
- VI 持続可能な運営体制の構築
 - 1(官民連携でつなげる)
 - 2(職員の育成でつなげる)
- VII 市民理解の促進

- ⑭ ストックマネジメント手法による将来投資額の縮減と財源の確保
- ⑮ 民間事業者等との連携を考慮した体制の構築
- ⑯ 資格取得支援の推進とデジタル化を推し進める人材の育成
- ⑰ 下水道の役割や災害に備える広報の充実と自助の促進

主要事業



まちのくらしを支える

1

下水道管や設備の改築更新



ストックマネジメント手法を用いて
老朽化した管路や設備を更新

2,959百万円



災害から守り備える

2

施設能力の強化



雨水ポンプ能力の増強、雨水貯留管
の整備により浸水被害に対応

818百万円

3

マンホールトイレの整備



避難所となる小中高校にマンホール
トイレを整備し、災害時のトイレを確保

123百万円



将来へ事業をつなげる

4

PPP/PFI手法の活用



東部雨水ポンプ場の建替えやウォー
ターPPPなど新たな民間活力の導入

47百万円

1

下水道管や設備の改築更新

2,959百万円



目的

ストックマネジメント手法により、優先順位をつけて老朽化した施設の更新や修繕を行い、効率的な施設の更新とそれらに係る費用の平準化を行う。

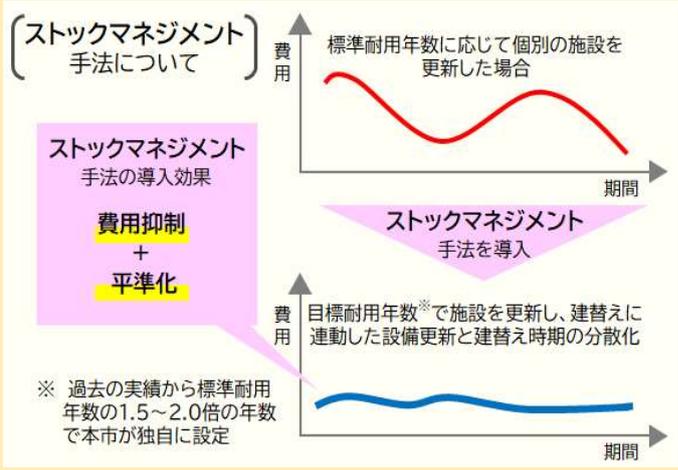
主な事業

管路の更新や老朽管調査など 1,880百万円

- 管路の更新を目的とした更生工事 1.6km
- 管路(φ450mm以上)の老朽管調査 21.0km

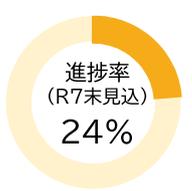
機械・電気等の設備更新工事 1,079百万円

- 北部浄化センター他7機場 25設備(箇所)



ビジョン進捗・目標

管路の改築更新



- 管路の更新スケジュール
令和4年度から令和13年度末までに約30kmの更新を予定。
ビジョン前半期間(令和8年度まで)は800mm以上の管路を中心に約11kmの更新を予定。



設備(機械・電気等)の改築更新

- 機械・電気等の設備の更新スケジュール
設備更新は、定期的な点検と修繕による予防保全を強化し、設備の延命化を図るとともに、将来の建替えを見据えた効率的な更新を実施。

※右の図は、建替えを見据えた目標耐用年数(標準耐用年数の概ね1.5~2.0倍)で機械・電気等の設備を更新する場合の更新サイクル





2

施設能力の強化(雨水ポンプ・雨水貯留管)

818百万円

目的

気候変動により強くなる雨の降り方や、都市化で浸透しにくくなる地面への対応を考慮した下水道施設の能力強化として、ポンプの雨水排水能力の増強工事や雨水貯留管の整備工事を実施する。

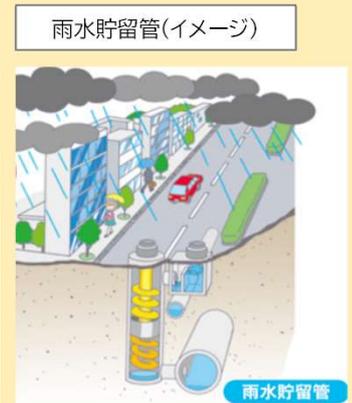
主な事業

雨水ポンプの能力増強 775百万円

- (大庄中継ポンプ場)
雨水ポンプの更新に合わせ、雨水排水能力の増強工事を実施。

雨水貯留管の整備 43百万円

- (武庫分区)
調査(道路交通影響等)・設計、地元説明会を実施。



ビジョン進捗・目標

令和4～7年度(予定)

- ポンプ能力増強 累計7基(R7予定:1基)
(合計20基/49基)
- 武庫分区雨水貯留管の基本設計等

令和13年度末目標

- ポンプ能力増強 累計14基
(合計27基/全49基)
- 武庫分区雨水貯留管の整備

進捗率
(R7末見込)
50%

今後の取組

雨水ポンプ

※令和3年度までに13基実施済

実施年度	実施数
令和4年度	1基 (⑧分区)
令和5年度	3基 (⑦、⑧分区)
令和6年度	2基 (⑦、⑧分区)
令和7年度	1基 (⑧分区)
令和8～13年度	7基 (⑦、①分区)
合計	14基 (27基/49基)

雨水貯留管(⑥分区)

実施年度	実施内容
令和7年度～	調査・設計、地元説明会の実施
令和9年度以降	山手幹線工区着手



災害から
守り備える
復元力の高い
下水道



3 マンホールトイレの整備

123百万円

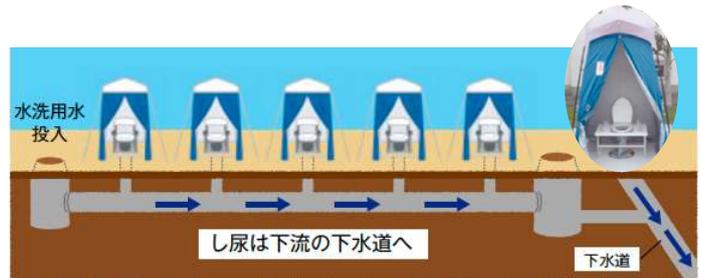
目的

災害時のトイレ機能確保の一つとして、避難所となる小・中・高校を対象とした全68校へマンホールトイレの設置を進め、被災時に地域住民の皆様がマンホールトイレの設営を行えるよう、自主防災組織などと連携して設営手順や使用ルールの周知に取り組む。

主な事業

マンホールトイレの整備 123百万円

- 設置予定校(6校)
 - ・潮小学校
 - ・立花小学校
 - ・武庫の里小学校
 - ・成良中学校
 - ・小田北中学校
 - ・常陽中学校



ビジョン進捗・目標

マンホールトイレ設置数(累計)

令和4～7年度(予定)

42校

(R7予定:6校)

令和13年度末目標

小中高校の避難所68校への設置

進捗率
(R7未見込)
62%

今後の取組

- 毎年6校ずつ整備を予定
令和7年度より中学校への設置に着手
- 設営訓練
地域住民が主体となって設営できるよう、設置が完了した避難所において防災訓練や市政出前講座を実施し、継続的に周知を行う。
避難所に応急給水拠点がある場合は、合同で訓練を実施。

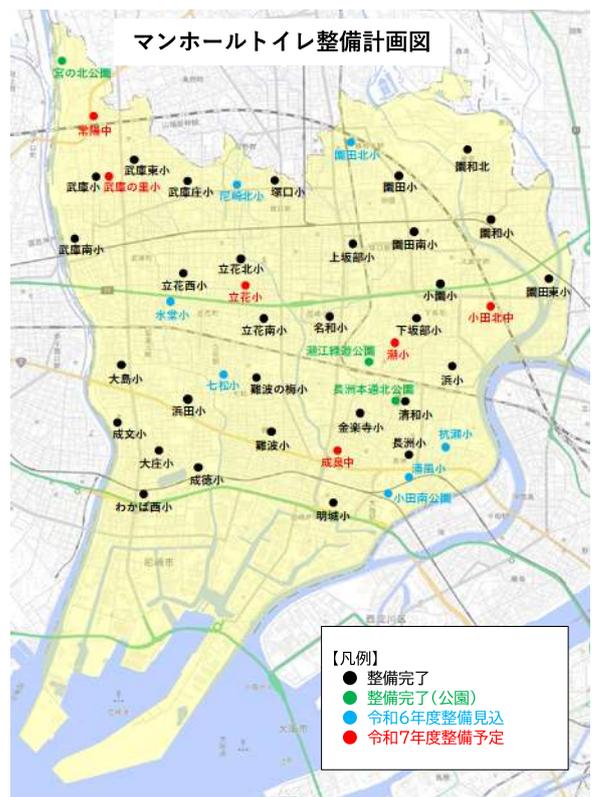


設営訓練の様子



あま咲きコインを活用し訓練参加を促進

- あま咲きコインアプリユーザーに訓練開催を通知
- 設営体験に参加した方にあま咲きコイン50ポイント付与



4

PPP/PFI手法の活用

47百万円



目的

今後も安定した経営で下水道事業を維持していくため、さらなる民間活力の導入が不可欠であることから、施設や管路の更新に対して、新たな官民連携(PPP/PFI手法)の導入を進める。

主な事業

ウォーターPPPの導入 45百万円

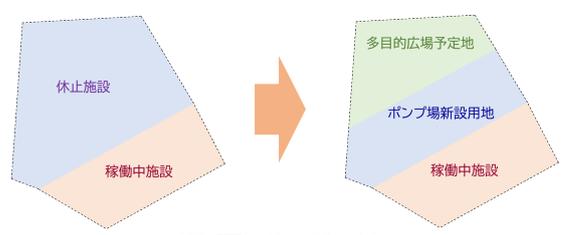
- ウォーターPPP発注支援業務委託
- 実施方針・要求水準書の検討

ウォーターPPP (管理・更新一体 マネジメント方式)	※ウォーターPPPとは、長期契約(原則10年)や性能発注、維持管理と更新を一体的にマネジメントする方式で民間活力を活用する手法 ※令和8年度中に導入が決定済みであることが下水道管改築の国費交付要件とされた。
長期契約(原則10年間)	
性能発注	
維持管理	
修繕	
更新	

東部雨水ポンプ場の建替え 2百万円

- PPP/PFI手法の参画意向調査等
- 都市計画変更

小田南公園再整備事業と連携し、これからの東部雨水ポンプ場の整備に合わせた都市計画変更を行う。



【東部雨水ポンプ場敷地】

今後の取組

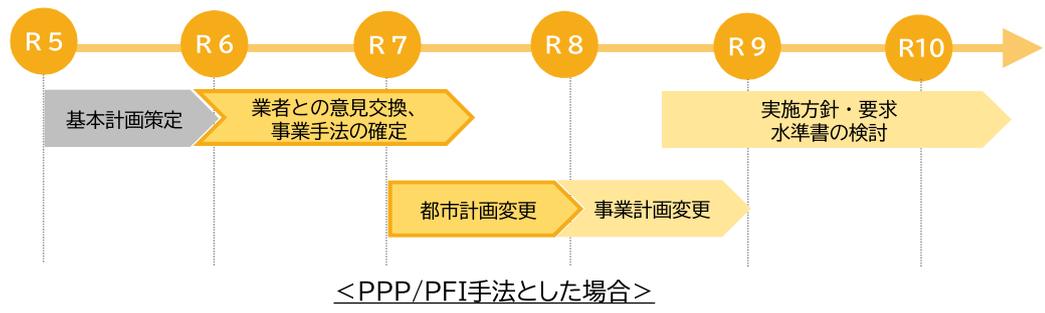
ウォーターPPP導入スケジュール

令和9年度以降、ウォーターPPPの導入を決定済みであることが污水管(合流管を含む)改築の国費の交付要件になったことを踏まえ、令和5年度から導入検討を進めており、令和8年度中の公募を目指す。



東部雨水ポンプ場建替スケジュール

東部雨水ポンプ場(S37年供用開始)は施設の中で最も古く、建替え用地も確保できていることから、「あまがさき下水道ビジョン2031」の期間での建替えを目指す。



モーターボート競走事業会計

令和5年度決算評価

事業進捗の課題等

- 令和5年度は、電話投票を中心とした売上向上を図る取り組みなどにより、売上や一般会計への繰出金は堅調に推移しましたが、競技エリア等の施設整備では進捗が遅れが生じました。
- 令和7年度予算では、こうした進捗上の課題等を踏まえる中で、目標の達成に向けた取組を着実に進めます。

■ 未達成項目

競技エリアの整備等



主な評価指標の課題等

売上（経営目標）

- 電話投票売上のさらなる向上を中心に、新たなファンの獲得やコアファン向けの施策展開等により売上の向上を目指します。

(単位:億円)

- ▶ ボートレース尼崎が主催するレースの売上総額
- ▶ 令和6年度～10年度までの5か年の売上総額2,600億円以上を経営目標として設定



一般会計繰出金（経営目標）

- 事業の収益性や経営の安定性を高めることにより、市への財政貢献を行っていきます。

(単位:億円)

- ▶ 費用化分と利益処分による繰出金の合計
- ▶ 令和6年度～10年度までの5か年の一般会計繰出金の総額150億円以上を経営目標として設定



本場年間来場者数（活動指標）

- レース以外に親子で楽しめる場所や地域の方が活用できる場所としての位置づけを強化し、来場者の増加を目指します。

(単位:万人)

- ▶ レース開催日の来場者数と非開催日の来場者数を合計
- ▶ 年間来場者数34万人以上を目標として設定



経営計画の取組項目

使命

ポートレースを通じ尼崎のまちの魅力づくりに貢献する

取組

電話投票を中心とした 売上向上

- ✔ グレードレース誘致や企画レースの実施
- ✔ YouTubeライブ 予想配信事業の実施
- ✔ 電話投票を意識したレース番組編成
- ✔ 選手会兵庫支部等を活用したレースの魅力PR
- ✔ 競技環境の改善
- ✔ アマチャン会員向けキャンペーンの実施
- ✔ ダイレクトメール等の活用による入会促進

ファミリー層も楽しめる 本場利用促進

- ✔ モーヴィあまがさきの運営
- ✔ 集客イベントの充実
- ✔ ファミリー向けの新たなコンテンツ導入
- ✔ 地域活動の場としての活用促進
- ✔ 周辺地域との連携促進

「おもてなし」の追求

- ✔ 接客マニュアルの策定
- ✔ 「おもてなし」スキルの向上
- ✔ お客様目線に立ったサービスの提供
- ✔ お客様目線に立ったハード整備

事業内容

主要事業

1

電話投票を中心とした
売上向上



売上向上のため、魅力あるレースの提供やアマチャン会員の新規獲得

501百万円

2

ファミリー層も楽しめる
本場利用促進



レース以外に親子で楽しめるイベント等の場内コンテンツの充実や地域への貢献

234百万円

3

競技環境の改善・お客様
目線に立ったハード整備



安全・安定的なレース環境の整備やお客様の利便性の向上

1,216百万円

1

電話投票を中心とした売上向上

501百万円



目的

電話投票を中心に、新たなファンの獲得やコアファン向けの施策展開等により売上の更なる向上を目指す。

主な事業

YouTubeライブ予想配信事業 216百万円

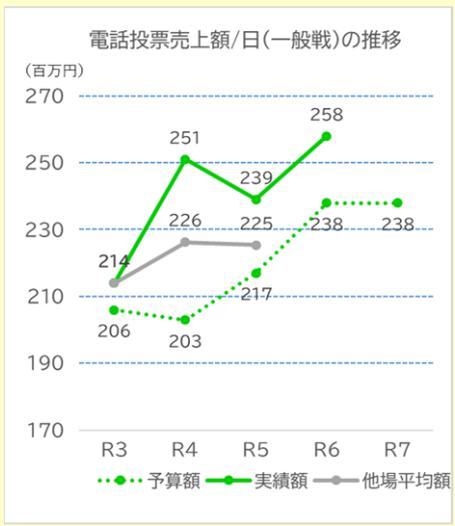
コアファン層だけでなく、ライトユーザー層にも届きやすい趣向の異なった3番組を配信

- ・うちの放浪記(令和2年1月～)
- ・特命部長永島(令和3年12月～)
- ・スターズプロジェクト(令和6年8月～)



ボートレース尼崎電話投票会員CLUBアマチャン運営等事業 95百万円

- ・キャッシュバックキャンペーン、会員への尼崎独自の招待ツアー、電話投票のデータ分析等
- ・ピットでの選手の気配やモーター整備情報等、現場のリアルな情報を届けるピットレポート配信



※R6実績額はR6.11末時点の決算見込額
 ※他場平均はデイ場(12場)の平均実績額

PG I ボートレースバトルチャンピオン トーナメント開催運営事業 190百万円

- ・本場イベント、YouTubeライブ予想配信等(開催日程)令和8年1月22日(木)～1月25日(日)



前年のSG・PG I の優勝者等が集結(48名)し、トーナメント制で開催

目標

● 電話投票売上額/日(一般戦)	令和5年度実績 2.5億円	▶	毎年度実績(目標) 2.5億円以上
● YouTubeチャンネル登録者数	令和5年度末時点 31,772人	▶	令和7年度末時点(目標) 46,600人
● アマチャン会員数	令和5年度末時点 63,197人	▶	令和7年度末時点(目標) 87,000人

2 ファミリー層も楽しめる本場利用促進

234百万円



目的

レース以外に親子で楽しめる場所や地域の方が活用できる場所としての位置づけを強化し、来場者の増加を目指す。

主な事業

ファミリー層集客事業 149百万円

プールや雪遊びといった季節イベントや、阪神電車とのコラボイベント、野菜即売会、地方物産展等、地域の方々やファミリーが楽しめる様々なイベントを実施する。

- ・春季(GW)集客事業
- ・夏季休暇集客事業
- ・秋冬集客事業
- ・場外PRキャラバン事業
- ・その他(野菜即売会等)集客事業



モーヴィあまがさき運営事業 85百万円

令和4年4月にオープンした親子のあそび場。発達段階に応じて多種多様な遊具・玩具を配置。引き続き、多方面への出張モーヴィを展開し、更なる認知度の向上に取り組むほか、平日での利用促進に向けた取組を実施する。



目標

- 年間来場者数(非開催日含む)

令和5年度実績
361,150人



毎年度実績(目標)
340,000人以上

- 小学生以下の年間来場者数(非開催日含む)

令和5年度実績
43,603人



毎年度実績(目標)
45,000人以上

- 地域行事等での年間利用回数

令和5年度実績
5回



令和7年度実績(目標)
7回

3

競技環境の改善・お客様目線に立ったハード整備 1,216百万円



目的

競技エリアの改修等に取り組み、安全・安定的にレースを運営するとともに、お客様目線に立ったハード整備を行い、より一層お客様に満足していただける施設を目指す。

主な事業

競技エリア施設整備事業 1,081百万円

- 総事業費:4,147百万円
 - 事業期間:令和5～8年度
- R7工事内容:艇庫棟・競技棟(2F)
ボート揚降装置・ピット(中央)
発電機設備



競技エリア

メインスタンド南面外壁改修工事

135百万円

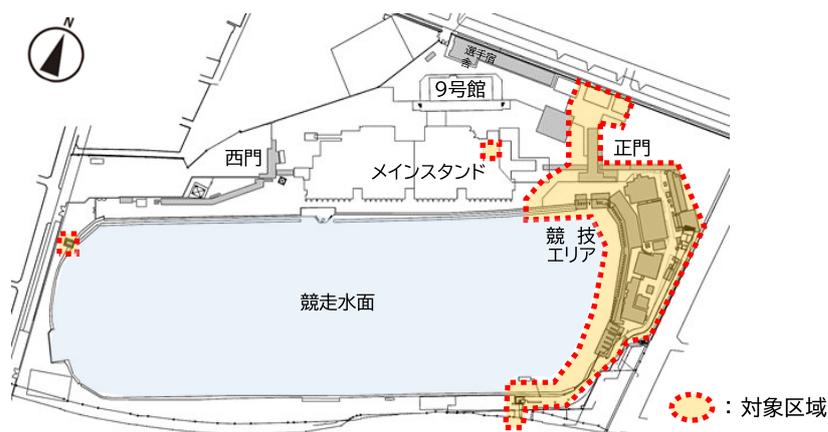
老朽化が進むメインスタンド南面外壁の改修を実施



メインスタンド南面外壁

今後の取組

競技エリア施設整備事業 スケジュール



R5

○ファン通路

R6

○検査棟
○ピット(西)

R7

○艇庫棟
○競技棟(2F)
○ボート揚降装置
○ピット(中央)
○発電機設備

R8

○選手棟
○競技棟(1F)
○ピット(南)
○練習参加棟
○手荷物検査棟

(このページは白紙です。)

 尼崎市水道下水道

 BOAT RACE 尼崎